

彙報

消息

今小路 覚 瑞 学長 (国文学)

昭和三十九年十一月大阪、北御堂サロンにおいて、十日間にわたり、大谷光照師・ハナヤ勘兵衛氏と共催で、海外の日本仏教会写真展を開き、好評。

橋 覚 勝 教授 (心理学)

昭和三十九年十一月熊本女子大学で開かれた、第六回日本老年社会科学会において、「老人の精神衛生」部会のシンポジウム講師の三人の発表に対し批判討論をした。

岡 邦 俊 教授 (宗教学)

昭和三十九年十一月東京仏教タイム社、京都、中外日報新聞社主催の第二次インド仏蹟視察団々長として約四週間の旅行。

「生きる仏教」三十九年四月刊 百華苑 二二六頁

嘉納 愛子 教授 (音楽)

昭和三十九年七月約一カ月間にわたり、欧米音楽視察のため旅行。

馬淵 卯三郎 助教授 (音楽史)

西独フンボルト基金による給費留学生として、一カ年間音楽史研究のため西ドイツに留学、四月七日伊丹発にて渡欧。キール大学、ワルター・ヴィオラ教授のもとで研究。

同教授の任地移動に伴って十一月以降ザールブリュッケン大学に移籍。

(現住所 66 Saarbrücken 2 (Rodenhof.) Obersteiner str.31)

沼波 守 教授 (国文学)

昨年十二月から高血圧のため、自宅静養中であつたが、本年十月から出講。

二十二 鉄 玄 教授 (国文学)

本年二月二十九日狭心症で北野病院へ入院加療、九月二十八日退院、自宅静養中

田中 重太郎 教授 (国文学)

六月二十一日(日)京都竜谷大学における仏教文学研究会第二回学会において

彙報

「清少納言の信仰」の研究発表をした。

著書「枕冊子」(国文学習叢書)(旺文社十月刊)。編書「源氏物語断簡」(東風社十月刊)。論文清少納言・枕草子の世界「人間論(愛情論)」他二編『清少納言の語彙』(「国文学解釈と鑑賞」昭和三十九年十一月号)

柿谷 雄三 講師 (国文学)

論文「清少納言の生涯(父祖・家庭・結婚・主家・生没)」他二編(「国文学解釈と鑑賞」昭和三十九年十一月号)

富田 朋介 教授 (生理学)

十一月一日竹尾結核研究所創立五十周年記念に、功勞者として表彰された。

山本 登美子 助教授 (洋裁)

昭和三十九年五月長年勤続、教育功績のため大阪府より表彰せらる。

森山 さり 助教授 (和裁)

昭和三十九年十月教授に昇任。

リサイタル (専任職員のみ)(昭和三十九年四月以降)

柳瀬 徹 講師 (音楽) 五月十五日 御堂会館

曲目

I 四季の歌 中田 喜直 作曲

(1) 春の歌 (2) 夏の歌 (3) 秋の歌 (4) 冬の歌

II 沙 羅 信時 潔 作曲

(1) 丹沢 (2) あづまの (3) 北秋の (4) 鴉 (5) 行々子

(6) 占うと (7) ゆめ Respighi 作曲

III 四つの歌 Persico 作曲

(1) 夢 (2) 水の精 (3) タベ (4) なつかしき調に乗せて

IV 七つの小さな歌 Persico 作曲

(1) 漁舟 (2) 不在 (3) 孤児 (4) 夜の嘆き

(5) いやはての歌 (6) 雪の夜 (7) 天使と共に

V 我が嘆きに実りを与えよ Donauti 作曲

(1) 我が胸に (2) ひばりのように (3) 娘は言った

久保田 清二 助手 (オルガン)

六月七日 カトリック大阪中央大聖堂

十月三十一日 東京・本郷弓町教会

曲目

I. J. S. Bach : 1. O Mensch, bewein dein Sunde gross.

2. Ich ruf zu dir Herr Jesu Christ.

3. Fantasia et Fuga g-moll

4. Konzert nach Vivaldi a-moll

5. Am Wasser flüssen Babylon

II. C. Franck : Choral No. 3 a-moll

III. J. P. Sweelinck : Variationen

“Mein junges Leben hat ein End”

伊奈 和子 講師 (ピアノ)

五月初旬 四天王寺会館

Y C A交響楽団 山田 和男 指揮

八月十日 毎日会館(サマーコンサート)

大阪フィルハーモニー 朝比奈 隆 指揮

九月二十六日 京都會館

二十七日

大阪フィルハーモニー 朝比奈 隆 指揮

曲目

Beethoven : Piano Concerto No. 5

美馬 千鶴子 助手 (ピアノ)

六月二十四日 日立ホール、第五十一回日立定期ピアノ鑑賞会

曲目

I. Bach : Französische Suiten VI E-dur

II. Schumann : Carnaval Op. 9

III. Debussy : 1. Rélets dans l'eau ;……Images

2. La Cathédral engloutie……Preludes

……Preludes

田中 万美子 講師 (声楽)

十月二十六日 毎日ホール

曲目

I. Händel

a 歌劇「リナルド」より

♪涙の流れるままに♪

b 感謝の歌

II. Brhms

① 愛のまこと

② 愛人を訪ねて

③ わがまごころみは

④ 永遠の愛

III. Tchaikovsky

① 子守歌

② 恋人よ語らないで

③ ただあこがれを知る者のみ

④ 何故に

IV 団伊玖磨 六つの子供のうた

V 高田三郎 パリ旅情

神前 百代 助手 (ヴァイオリン)

十一月九日 京都 大谷ホール

十一月十二日 御堂会館

曲目 Schubert : Sonatine 第一番 Ddur Op. 137-1

Franck : Sonata A-dur Chausson : 詩曲

Wieniawski : 華麗なる大キロネース A-dur Op. 21

Prokofiev : 五つのロネ Op. 35

図書館棚だより (主なるもの)

〔一般教育関係〕

| | | | | | |
|----------------------|---------------|-------|---------------------------------|-------------------------|-------|
| グインデルバント著 清水 清訳 | 哲学 概論 | 昭三十七年 | シャントビール・ド・ラ ・ソーセイ著 篠田 一人訳 | 宗教史大系、第一巻 | 昭二十年 |
| 宮本 和吉 | カント研究 | 昭十六年 | 河野 与一 | ライプニッツ論 | 昭十六年 |
| リップス著 島田 四郎訳 | 倫理学の根本問題 | 昭三十五年 | 川田 熊太郎 | 仏教と哲学 | 昭三十八年 |
| フイヒテ著 陶山 務訳 | 懐疑・知識・信仰 | 昭三年 | 桑木 敏翼 | カントと現代の哲学 | 昭二十九年 |
| 小池 長之 | 日本の宗教史 | 昭三十八年 | 館 照道 | 理性の運命 | 昭二十九年 |
| 田辺 寿利 | コントの実証哲学 | 昭三十三年 | 三 渡 幸雄 | カント批判哲学の概造、正統編 | 昭三十五年 |
| 上松 寅三 | 石山本願寺日記、上、下 | 昭五年 | 〔教職課程関係〕 | | |
| マクス・ミュラー著 清水友次郎訳 | 宗教学綱要 | 大十年 | 皇 至 道 | 西洋教育通史 | 昭三十七年 |
| 真鍋 広 濟 | 地藏菩薩の研究 | 昭三十五年 | 志 賀 匡 | 日本女子教育史 | 昭三十五年 |
| 小野 武 夫 | 日本農民史語彙 | 大十五年 | 教師養成研究会編 | 道徳教育の研究 | 昭三十八年 |
| 辻 善之助 | 日本仏教史之研究、続編 | 昭十八年 | 内 山 克 己 | 近代教育史 | 昭三十八年 |
| 篠田 一 人 | 宗教の本質と現象 | 出版年不詳 | 大 嶋 三 男 | 近世日本教育文化史 | 昭三十六年 |
| 松村 一 人 | 現代観念論批判 | 昭二十三年 | 東京学芸大学教育 研究所編 | 新教育課程の実践的研究 | 昭三十五年 |
| ウキル・デアラント著 白根 孝之訳 | 宗 教 哲 学 | 昭八年 | 教師養成研究会編 | 精神薄弱児教育の基本問題 | 昭三十六年 |
| ワルタ・エアリヒ著 齊藤 昶訳 | カントとフッサール | 昭三年 | 植村 鷹千代他訳 | 教育 原 理 | 昭三十八年 |
| 波多野 精 一 | 宗教哲学の本質及其根本問題 | 大十年 | 波多野 完 治 | 芸術による教育 | 昭三十四年 |
| 西田幾多郎先生 頌徳記念会編 | 西田先生とその哲学 | 昭二十四年 | 市 川 本太郎 シユブランガー著 | 授業の科学、一〜七 | 昭三十九年 |
| 中村 元 | 宗教における思索と実践 | 昭二十四年 | 浜田 正秀訳 | 小原国芳全集、六、八〜十四 | 昭三十九年 |
| 佐藤 信 衛 | 西田幾多郎と三木清 | 昭二十二年 | 波多野 完 治 | 世界教育宝典、五、六、八〜十九 | 昭三十九年 |
| ロイス著 鈴木 竜司訳 | 宗 教 哲 学 | 大十二年 | マジョリ・イースト著 エドガー・デール編 | 教育漢字指導法 | 昭三十八年 |
| 高橋 里 美 | 歴史と弁証法 | 昭十四年 | 野津 良夫訳 | 現代教育心理学大系、一、三〜十四 | 昭三十四年 |
| 田淵 正 範 | 英米の宗教哲学 | 昭七年 | McDonald, F. J. | 視聴覚教育と展示 | 昭三十五年 |
| 安部 光 槌 | ソクラテス研究 | 昭十五年 | 〔国文科関係〕 | Educational Psychology. | 1963 |
| | | | 佐々木 信 綱 | 百代 草 | 大十四年 |
| | | | 沢 瀧 久 孝 | 万葉集注釈、巻第十三 | 昭三十九年 |

彙 報

| | | | | | |
|---------------------------|----------------|-------|------------------------|---|-------|
| 河 緒 実 英 | 宮中女官生活史 | 昭三十八年 | 島 蘭 順 雄他編 | タンパク質アミノ酸の栄養学 | 昭三十九年 |
| 橋 本 不美男他 | 未刊国文資料、第三期、第一冊 | 昭三十九年 | 八 木 国 夫 | フラビンの生化学 | 昭三十二年 |
| 山 崎 久 之 | 国語待遇表現体系の研究 | 昭三十八年 | カールソン著 江上不二夫訳 | 生化学教程 | 昭三十九年 |
| 野 本 白 雲編 | 書体大字典、第一〜第十二卷 | 昭十五年 | 刈 米 達 夫 | 植物成分の化学 | 昭三十七年 |
| 安 井 久 善 | 仙覚律師奏状(複製) | 昭 四 年 | 正倉院事務所編 | 正倉院宝物 染織、下 | 昭三十八年 |
| 佐 成 謙 太 郎 | 藤原為家全歌集 | 昭三十七年 | J・N・デビッドソン著 石田 政弘他訳 | 核酸の生化学 | 昭三十九年 |
| | 謡曲大観、第一〜第三卷 | 昭三十九年 | 岩 崎 振 一 郎 | 織 維 要 論 | 昭三十九年 |
| | 明恵上人歌集(複製) | 昭三十七年 | H. G. Hers 著 日下 喬史訳 | 動物における フラクトースの代謝 | 昭三十四年 |
| 早稲田大学坪内博士 記念演劇博物館 | 演劇百科大事典一〜六 | 昭三十七年 | H・フオン・オイラー他 | レダクトン化学の基礎とビタミンCの 生化学的成果 | 昭三十五年 |
| 窪 田 空 穂 | 完本新古今和歌集評釈 上 | 昭三十九年 | 稲 垣 長 典 | 新版 食品学 | 昭三十九年 |
| 河 竹 繁 俊 | 日本戯曲史 | 〃 | 豊 川 行 平 | 食品衛生学 | 昭三十八年 |
| 大 津 有 一 | 伊勢物語古註釈の研究 | 昭二十九 | 吉 川 春 寿 | ワールブルグ検圧計 | 昭三十六年 |
| 井 上 章 | 天草版伊曾保物語の研究 | 昭三十八年 | 井 上 憲 政 | 応用微生物の理論と実際 | 昭三十二年 |
| 木 南 卓 一 | 慈 雲 の 書 | 〃 | 田 中 豊 太 郎 | 民芸図鑑、第三卷 | 昭三十八年 |
| 渋谷 虎 雄 | 古文獻所収 万葉和歌索引 | 〃 | Bogert, L. J. | Nutrition and Physical Fitness, 7. ed. | 1963 |
| 林 和 比 古 | 枕草子の研究 | 昭三十九年 | Nizel, A. E. | Nutrition in Clinical Dentistry. | 1960 |
| 目 加 出 さ ぐ を | 物語作家圈の研究 | 昭三十八年 | Fox, B. A. | A Chemical Approach to Food and Nutrition. | 1963 |
| 室 松 岩 雄編 | 歌学文庫 二、四 | 昭三十九年 | | | |
| 藤 原 鶴 来 | 和漢書道史 | 昭三十九年 | | | |
| | 嵯峨本徒然草、上、下(複製) | 昭 九 年 | | | |
| [家政科関係] | | | [音楽学部関係] | | |
| 赤 堀 四 郎 | 臨床酵素学 | 昭三十九年 | 東京芸術大学音楽学部 | 音楽教育法の研究 | 昭二十八年 |
| Anthony, H. R. 著 中山 清訳 | 工業微生物学 | 昭三十八年 | 竹 内 敏 雄 | アリストテレスの芸術理論 | 昭三十四年 |
| 田 坂 定 孝 | 臨床内分泌学 | 昭三十六年 | シエルマン・バザン著 秋山 光和訳 | 世界美術史 | 昭三十二年 |
| 赤 堀 四 郎 | 酵素研究法一〜四 | 昭三十八年 | Harap, L. | Social Roots of the Arts. | 1949 |
| | 電気泳動学会 | 〃 | Lundin, R. | W. An Objective Psychology of Music. | 1953 |
| | 天然物化学 | 〃 | Seashore, C. | E. Psychology of Music. | 1938 |
| 岡 本 敏 彦 | 核 酸 | 昭三十八年 | Cohen, H. | Asthetik des Reinen Gefuhls, Bd. 1. 2. | 1912 |
| 大 沢 省 三 | ガスクロマトグラフィ | 昭三十九年 | Barbour, J. M. | Tuning and Temperament | 1955 |
| 雨 宮 良 三 | | | Sachs, C. | Our Musical Heritage | 1955 |

| | | |
|-------------------|--|------|
| Baines, A | WoodWind Instruments and Their History. | 1957 |
| Dean, W. | Handel's Dramatic Oratorios and Masques. | 1959 |
| Buchner, A. | Musik Instrumente im Wandel der Zeiten. | 1957 |
| Tell W. | Kleine Geschichte der Deutschen Evangelischen Kirchen Musik. | 1962 |
| Cooke, D. | The Language of Musik. | 1960 |
| Wolff, H. C. | Die Handel. | 1957 |
| Chavez, C. | Musical Thought. | 1961 |
| Walker, A. | A Study in Musical Analysis, | 1963 |
| Buck, P. C. | Psychology for Musicians. | 1961 |
| Riemann, H. | History of Music Theory, Books. 1, 2 | 1962 |
| Parish, C. | A Treasury of Early Music. | 1958 |
| Ferguson, N. | Piano Interpretation. | 1950 |
| Jacob, G. | The Elements of Orches Tration. | 1962 |
| Silbermann, A. | The Sociology Music. | 1963 |
| Edwards, A. | The Art of Melody. | 1956 |
| Zuckerlandl, V. | Sound and Symbol; Music and the External Word. | 1956 |
| Mendel, R.W.S. | The Divine Quest in Music. | 1957 |
| Farnsworth. P. R. | The Social Psychology of Music | 1958 |
| Devare, U. | Faith in Music. | 1958 |
| Cox-Life, W. | The Elements of Conduing. | 1964 |
| Kuhn, W. F. | Instrumental, music. | 1962 |
| Berges, R. | Opera; Origins and Side Lights. | 1961 |
| Nettl, P. | The Dance in Classical Music. | 1964 |
| Blankopf, K. | Grosse Virtuosen, 4-7. | 1957 |
| Donington, R. | The Interpretation of Early Music. | 1963 |

第二十七回 相愛学園読書会

報 報

三月九日、午後二時より、図書館にて開催、解説者中野恵海先生、出席者、荒井、田中、柿谷、中野、川喜多、山田、諸先生方を合せて、四十四名、先ず、中野先生より今回のテーマである、アンドレ・シイド著、「狭き門」について解説される。キリスト教的精神が中心となつて居り、自己犠牲による徳の追求の悲劇が描かれ、女主人公のアリサは、従姉のマドレーヌの面影をうつした部分か、かなり多いが、また作者の分身でもあり、かつて、そこから脱出しようと血みどろな格闘をした彼自身でもある。すなわちアリサの神秘的な禁欲主義は、ジェロームの受動的な遅疑逡巡の前に、絶えず動揺しながらも、純粹に必然的な過程をたどつて、ついに完全な自己放棄にまで、到達しようとする内容を話され、次に荒井先生よりキリスト教的立場より見た「狭き門」について述べられ、田中先生より補足解説あり、最後に参加者に「狭き門」の読書感想文を書いてもらい、それを中心として、先生方と、学生との意見を述べ合った。今回は八月二日、須磨荘テーマは、「夏目漱石著」「こころ」と決定し、午後五時閉会。(甲田記)

第二十八回 相愛学園読書会

八月二日、午前十時より、神戸市国民宿舎、「須磨荘」にて開催。解説者柿谷雄三先生、出席者荒井、中野、柿谷、山田先生を合せて二十五名、前方に歴史に名高い須磨浦海岸をのぞみ、海辺より吹く松風にかにも、夏の浜辺の会場にふさわしい場所である。今回は読書会とリクレーションをかねているので、学生達も思い思いの計画に心はずませていた。用意されていた冷いお茶で汗を入れ、先ず今回のテーマである漱石の「こころ」について、柿谷先生が落ちついた口調で解説され、「主人公」「先生」がエピソードによる苦悩から脱け出ようと、完全な自己否定の立場に至るまでの心的過程とその必然的帰結を描いたものであると話される。それに対して学生より、主人公、先生の立場となつた場合、先生と同じ態度で死を待つて自我の罪悪の脱出の道として死を選ぶべきではないか、又一人この世にのこされた奥さんの立場を考えると、先生の自殺は先生自身のエピソードであり死を選ばずに二人で協力して強く生きて行こうとする努力が必要でなかろうかとの意見が出て、最後に荒井先生が、明治、大正、昭和との時代思想の違いを述べられ総まとめをされた。午後二時次回のテーマを「人形の家」と決

め閉会し、その後自由行動となり、海水浴又は附近の史蹟めぐりに各自楽しい夏の日を過ごした。
(甲田記)

国文科文学遺蹟めぐり

国文科では、定例の文学遺蹟めぐりを左のとおりおこなった。参加者は、田中教授、柿谷、大橋而講師、永田助手をはじめ、一、二年の学生百二十一名(欠席者五名)であった。

十月二十九日(木)

京都(六波羅蜜寺、鳥戸野陵)宇治(平等院その他)

家庭管理実習

本年度一年生に対し、雲雀ヶ丘家庭科教室において実施した。

第一回 八月六日―八月八日(二泊三日)

一年B組中十五名参加

第二回 十一月一日―十一月二日(一泊二日)

一年A組全員参加